

武汉大学留学報告  
(2014年2月17日～3月24日)



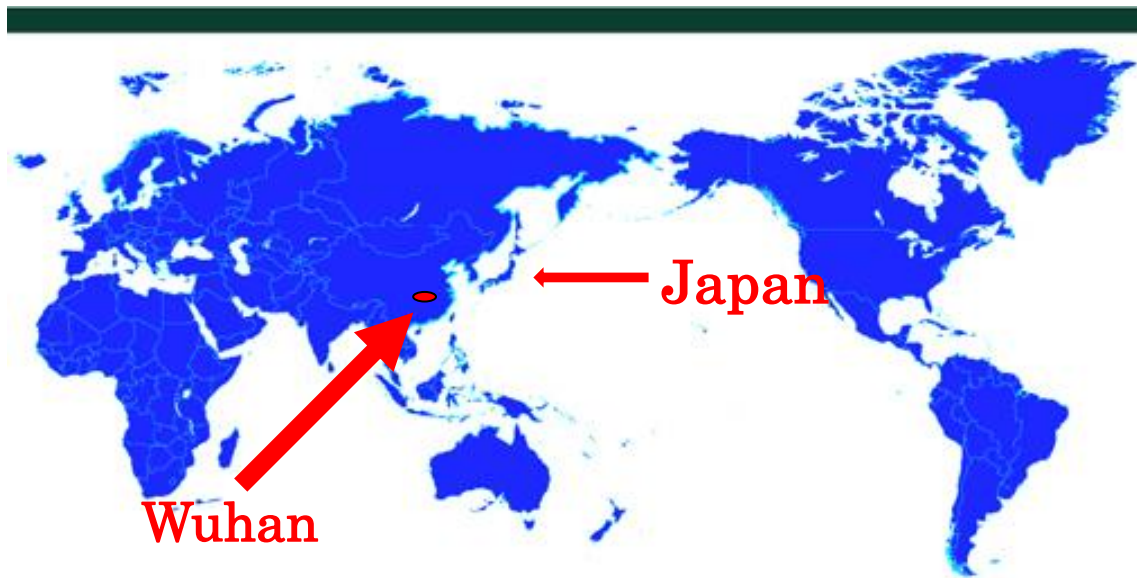
医学部 4年 高岡沙知

2014年2月17日から3月25日までの5週間、私は中国の湖北省武漢市にある国立武漢大学に留学させていただきました。この留学を通して、多くのものを見て感じて学ぶことが出来、貴重な経験をすることが出来ました。そのほんの一部ではありますが、この場で報告をさせていただきたいと思います。

## 目次

- (1) 武漢市・武漢大学について
- (2) 武漢での生活について
- (3) 武漢大学での基礎上級について
- (4) 武漢の人々・友人について

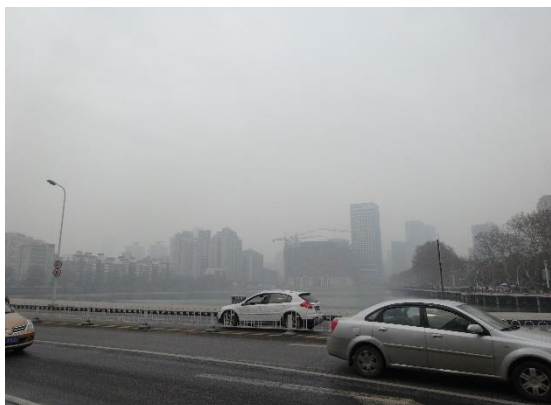
### (1)武漢市・武漢大学について



武漢市は中国の内陸に位置し、気候は雪がめったに降らないことを除いて福島によく似ています。面積は福島県の半分ですが、人口は5倍にのぼります。昨今、急速に発展を遂げている地域であり、いたる所で高層ビルやマンション、様々な施設の建設が進められていました。その反面、中国国内でも大気汚染が深刻な地域の一つであり、私たちも外出の際に往来を出歩く際はマスクを着用するようにしていました。

武漢市の交通に関して驚いたことが二つあります。一つはその危険さです。信号無視は当たり前です。人が横断していても車は速度を弛めません。私も何度か死にかけましたが、最終的には一人で横断歩道を渡れるようになりました。それくらい交通ルールは乱れ、ドライバーの運転も荒いです。加えて交通量も多いので尚更です。二つ目は、高級車が多いことです。武漢市は富裕層が多いようですが、大学周辺の道路では多くの高級車が走って

いました。その反面、近代的な高いビルとは対称的に、繁華街の裏や郊外にはレンガ造りの古い家が立ち並び、様相が一変します。観光地には物乞いもあり、急速な発展を遂げているからこそその大きな貧富の差を感じさせられました。



↑ 大気汚染の為、晴れても常にスモッグが…  
ビル街のすぐ近くの家屋→  
↓ 郊外の家屋はほとんどレンガ造り



↑ 滞在中、最も空気がきれいだった日



武漢大学は法学、経済学、工学、医学など 11 学部を擁する総合大学で、東湖、珞珈山を望む風光明媚な場所にあり、中国で最も美しい大学と呼ばれています。医学部キャンパスと本部の 2 つのキャンパスがあり、学生は授業によって 2 つのキャンパスをバスで行き来しています。総敷地面積は 344 万平方メートルと広大で、歴史ある建物も多く、26 棟が全国文物重点保護單位に指定されています。大学自体が観光地であり、春には桜の名所として多くの観光客が訪れるようです。私たちも多くの学生・先生方からお花見を勧められ、帰国直前にお花見をすることが出来ました。

学生数は 5 万人で、そのうちの約 4 割が大学院生です。また、香港、マカオ、台湾を含む海外からの留学生は 2,000 人を超えるそうです。実際に、留学生クラスでは多国籍の学生が在籍しており、インド、タイ、マレーシア、シンガポールなどの東南アジア諸国をはじめ、ザンビア、バングラディシュなどのアフリカ地域、スコットランド、オーストラリ

アなどの英語圏の学生と出会うことが出来ました。

学生は皆、勤勉で、中庭や図書館で朝早くから夜遅くまで勉強していました。もちろん、授業をさぼる学生、授業中に内職をする学生もおり、その点は日本と変わらないなと思いました。大きく異なるのが、ほぼ全ての学生が大学敷地内の寮に住み、学生食堂で食事をしている点です。校内には体育館や運動場、売店もあり、生活する分には何ら不自由がないように思えました。

メインキャンパス→

↓医学部キャンパス



## (2)武漢での生活について

生活する上で最も問題となったのが、衛生環境の悪さでした。大気汚染はもちろんですが、とにかくどこもかしこも目に付くものが全てが汚いです。私たちが滞在していた大学敷地内のホテルも例外ではなく、帰国するまで慣れることは出来ませんでした。全てにおいて、いかに日本がきれいな国かを実感させられました。特にトイレはペーパーを流すことが出来ないのと、マナーが悪いせいか、臭い・汚い・キモイ(汚物 etc.)の3Kが揃っていました。

学生・先生以外は中国語しか通じないため、ホテルでは部屋の掃除や洗濯をするためにスタッフに中国語で頼んだり(洗濯機=シーイージー、掃除機=シーチェンチーなど)、学生食堂でも注文したいものを指さしたり写真を撮って示したりと、留学当初は非常に苦労しました。しかし、どの人も、拙い中国語を聞き取ろうと協力して下さる親切な方ばかりでした。

食事に関してですが、私たちはほぼ3食を学生食堂で食べていました。休日や友達に誘われた時は外食しますが、その安さと品数の多さ、利便性のために最も利用していました。学生数が多いので非常に混み合うのと、中国料理特有の脂っこさを除けば、医大の食堂も見習ってほしいものだと思います。



↑メインキャンパスの学生食堂  
↓医学部キャンパスの学生食堂にて



↑食堂で食べたウィグル料理  
↓普段の朝食



### (3)武漢大学での基礎上級について

私は **school of public health** という、基礎医学講座から完全に独立した機関の研究室で一か月間お世話になりました。研究室の責任者である **Dr.Ma** や、同じ研究室に所属する学部生の女の子から統計学の基礎理論や解析方法、**SPSS** という解析ソフトの使い方を学びました。また、中国語で行われた統計学の授業にも何度か参加させていただき、知識を深めることが出来ました。最終的には、それらの知識を用いて、中国のある都市で数年に渡って集められた **PM2.5** の濃度、病院での循環器疾患、呼吸器疾患による死亡者数などのデータの解析を行いました。中国では、公衆衛生学において大気汚染が大きなトピックなようで、研究室に所属する多くの学生が大気汚染に関する研究をしていたり、他国の大気汚染問題に興味があるようで、多くの質問を受けました。

データの解析以外にも、毎週行われる研究室内の **meeting** に参加し、福島や日本の医学教育、大気汚染問題についてプレゼンテーションを行ったり、最終日には解析したデータの発表を行いました。

また、別の研究グループの **community investigation** にも一度参加させていただき、武漢市の保健所のような施設や周辺の民家に訪問し、高齢者に **Alzheimer** 病に関するアンケ

ート調査を行いました。内容は、私たちが公衆衛生学の実習で行ったようなものに近いものですが、姓名やいくつかの質問内容が中国特有のもので、非常に興味深かったです。

4人それぞれが所属した講座の中で、この講座が最も良い講座だったと思います。研究室にいる学生の歳が近く、非常によくお世話して下さい、観光にも連れて行ってもらえました。Dr.Maをはじめ、研究室の学生全員に深く感謝しています。



↑研究室。院生が7人所属。他にも学部生多数。  
↓武漢市のある地区の保健所



↑街中の診療所  
↓保健所にて、アンケート調査中。



研究室で過ごす以外にも、留学生クラスの中国語の授業をはじめ、薬理学、病理学、解剖学、免疫学など様々な授業に参加することが出来ました。中国人の友達の勧めで診断学の授業にも参加し、外国語で学ぶことの難しさを非常に感じました。何より、授業の内容が非常に細かいこともあり、語学力の乏しさを嘆くばかりでした。多くの学生が母国語の他に英語はもちろん、数か国語話すことが出来るので、日本の学生との語学力の差を痛感しました。

#### (4)武漢の人々・友人について

私の出会った武漢の人々は、日本人に対して友好的で、非常に親切でした。特に、私たちの留学期間全体を通して生活や観光のサポートをして下さった二人の中国人の学生さん

には大変感謝しています。大学内の学生と一部の教職員しか英語を話すことが出来ず、その他の人たちとは中国語でコミュニケーションをとらざるを得なかったため、彼らの日本語の堪能さは大きな助けとなりました。



↑右前の男性がモウさん(6か国語話せます!) ↑右から2番目が諸星さん(あだ名)

留学前、過去に武漢大学に留学された先輩方から友達作りで苦労したという話を聞いていましたが、私たちは幸運なことにたくさんの友人に恵まれました。多くが留学生コースの授業で知り合った学生ですが、その他にも互いに知り合った学生を紹介し合い、外国人の友達からも次から次へと友達を紹介してもらえたことで、中国人をはじめ多国籍の友達を得ることが出来ました。みんながみんな、私たちに親切で、観光に連れて行ってくれたり、ホームパーティーをしたりと毎日が非常に充実していました。ここで友達作りの助けとなったのが、日本の文化やアニメーション、ドラマの話だったので、私たちが考えていた以上に外国人の日本に対する興味・関心は高いのだなと感じました。



↑私たちが日本から持ってきたそばやすき焼きのたれを使い、現地の食材でアレンジしてもてなしました。外国人の学生も自分の故郷のお菓子や中華料理をふるまってくれました。

平日は一緒にご飯を食べたり、日本語に興味がある学生には日本語を教えてあげたり、民族衣装を着せてもらったりと多くの時間をこの地の友達と過ごせました。

観光では、湖北省の歴史を学べる博物館や黄鶴楼、お寺、湖をはじめ多くの観光地に足

を運ぶことが出来ました。それ以外にも、学生が普段遊びに行くようなショッピングモールや屋台街などにも行くことが出来、武漢の昔と今の2つの側面を見ることが出来ました。



(左上：博物館 左下：黄鶴楼 右上：コスプレショー)

学生以外にも、過去に福島医大に留学されていたという先生方とお会いして、夕食を食べたり観光と一緒に行きました。どの先生方も、福島医大の先生方に大変感謝しており、是非またお会いしたいとおっしゃっていました。私も、先生方だけでなく、多くの学生に大変お世話になり感謝が尽きないので、彼らが日本に来た時は出来るだけのサポートをしたいと思います。この留学を通して、海外の学生や先生方のこのような関係を築くことが出来たことが、私にとって最も大きな収穫であり、人生の財産になったと思います。





↑昨年、医大に留学されていた3人の先生方   ↑10年前に留学されていた Wong 先生

この留学を通して、コミュニケーションスキルとして英語の重要性、ハングリー精神、自分の国のことをもっと知ることだけでなく、海外にも目を向ける必要性など、多くのことを学び、感じる事が出来ました。毎日毎日が新しい発見に満ち溢れていて、5週間はあっという間に過ぎてしまい、もっと長く留学していたいという気持ちがありますが、この機会を与えて下さった先生方と多くの関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今後も、武漢大学と福島医大が末永く交流を深めていけることを祈っています。本当に、ありがとうございました。